神奈川歯科大学短期大学部紀要，2，47－53，2015

原　著

看護職の現認教育を目的に実施した研修の有効性と課題
～3年間の研修プログラムの実施状況と参加者のアンケートから～

The validity of the training which put acknowledgment education of nursing work into effect in a destination and problem
～ From the implementation situation of the training program and participant's questionnaire for 3 years ～

前山　直美*　日野川　真由美**　梶原　美穂***　川邊　康子****
石井　英利子*****　佐藤　奈津子******　若狭　晶子*******
鶴川　裕子********　雑花　恵美子*********　三澤　蒔絵**********
Naomi MAEYAMA，Mayumi HINOKAWA，Miho KAJIWARA，Yasuko KAWABE，Eriko ISII
Natuko SATO，Shoko WAKASA，Hiroko TURUKAWA，Emiko SAKKA，Makie MISAWA

*神奈川歯科大学短期大学部　看護学科
**独立行政法人国立病院機構相模原病院
***川崎市立多摩病院
****平塚市民病院
*****横浜市立大学附属市民総合医療センター
******国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院
*******北里大学病院
********済生会横浜市東部病院
*********徳洲会湘南藤沢徳洲会病院
**********かもめ助産院

キーワード：看護職　キャリア開発　教育プログラム　評価

要約

［目的］看護職の現認教育を目的に実施した過去３年間の研修の有効性と課題を明らかにすることを目的とした。

［方法］職能団体が主催する研修会に参加した838名の看護職を対象とし、無記名自記式調査票を用いて調査した。調査票回収率100%、有効回答807名（96.3%）であった。

［結果］看護職の現認教育を目的に実施した過去３年間の研修は、受講者のニーズに即した「助産実践に必要な助産診断およびケア」「専門性の高いケアリング」の視点を持つ内容であることが明らかになった。それらは看護職の年代を問わず関心が高いものであり、研修で学んだ知識・技術を講習会・勉強会を開催し伝達されており、妊産婦のケアに活用されていたことが明らかになった。以上のことから、母子保健・周産期医療サービス充実のために看護職の専門性の確立と現認教育を支援する有効な研修であると示唆された。

一方、使用した自記式調査票は自由記載を求める項目が多く、研修の有効性を分析するには困難であった。今後は、調査票の検討が課題として明らかになった。

受付日　2014年12月15日　　受理　2015年２月３日

Ⅰ　緒言

神奈川県看護協会は、看護の資格を有する者が任意に加入し、看護の場における量的、質的な環境づくりを支援する看護職能団体であるとともに、公衆衛生の向上と県民の健康保持、増進に寄与することを目的として活動する公益社団法人である。[1)]

職能委員会のひとつである助産師職能委員会の活動方針は「県民の母子保健・周産期医療サービス充実のために助産師の専門性の確立と現認教育を支援する」であり、助産実践力向上に役立つ知識・技術等の研修会を開催している。[2)] 助産師職能委員会のメンバーは、周産期領域や教育現場に勤務する助産師で構成されている。研修テーマの選定は、研修参加者から頂いた意見や職能委員である臨床助産師が臨床現場で遭遇し、実践能力に必要と考える知識や、助産ケアに必要な最新の技術などについて情報交換した中から決定している。実際の研修内容は、臨床での助産実践に必要な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断及びケアと専門性の高いケアリングの視点を再確認できるもので、年6回実施している。筆者らは以上の内容の企画と運営を行っている。

公益社団法人日本看護協会は、2013年助産師の育成に有用なツールとして「助産師キャリアパス／クリニカルラダー」を開発した。[3)]「クリニカルラダーにあげた助産師実践能力のおもな内容」[4)] は「倫理的感応力」「マタニティケア能力」「専門的自立能力」を大項目にあげている。「倫理的感応力」とはケアリングの姿勢であり、「マタニティケア能力」を高めるための必須研修に「NCPR（Bコース）」「CTG」「フィジカルアセスメント」「陣痛促進剤の使用」「助産記録」をあげた。各地区の助産師職能委員会で独自の研修会が開催されているが、神奈川県助産師職能委員会では、「倫理的感応力」「マタニティケア能力」を高めるための研修を日本看護協会が示すより早い時期から企画し実施している。

本研究の目的は、看護職の現認教育を目的に実施した過去3年間の研修プログラムの実施状況と参加者のアンケートから、研修の有効性と課題を明らかにすることである。

Ⅱ　研究方法

1．**研究対象者**：神奈川県看護協会助産師職能委員会が主催する研修会参加者838名（回収率100%）のうち有効回答807名（96.3%）を研究対象者とした。

2．**調査期間**：平成23年6月～平成26年3月。

3．**対象研修会とその概要について（表1）**

対象の研修は、1）胎児心拍数波形分類の判読と対応（Cardiotocogram；以下CTG略）2）妊産婦のリフレクソロジー（以下リフレクソロジー略）、3）新生児蘇生法講習会（Aコース）（Neonatal Cardio-

表1　研修名とその概要について

研修名	研修目的	方法	講師の職種	所要時間	配布資料等	講義の概要
胎児心拍数波形分類の判読と対応	県民の母子保健ｻｰﾋﾞｽ向上のため、胎児心拍波形分類の判読とその対応を習得する。	講義形式	大学教授（産婦人科医師）	2時間30分	なし	CTG判読に必要な基本的な知識の確認と臨床現場で遭遇する事例の紹介とその対応について。
妊産婦のﾘﾌﾚｸｿﾛｼﾞｰ	県民の母子保健ｻｰﾋﾞｽ向上のため、妊産婦のﾘﾌﾚｸｿﾛｼﾞｰを習得する。	講義と演習形式	医師（開業） リフレクソロジスト	3時間	あり	ﾘﾌﾚｸｿﾛｼﾞｰの歴史や解剖学的な位置とﾘﾌﾚｸｽｿﾞｰﾝの講義。 母乳ｹｱ役立つﾘﾌﾚｸｿﾛｼﾞｰのﾃｸﾆｯｸについてﾘﾌﾚｸｿﾛｼﾞｽﾄの演習と研修生同志で実技演習。
新生児蘇生法講習会（Aｺｰｽ）	県民の母子保健・周産期医療向上のため、新生児蘇生法を普及し貢献できる人材育成を図る	講義と演習形式	新生児蘇生法講習会Ⅰコース認定ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	5時間30分	なし	テキストによる事前学習を指定。15分間のﾌﾟﾚﾃｽﾄ実施後、60分講義。ﾌﾟﾚﾃｽﾄも解説。3人のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰによるｼﾅﾘｵ実演後、Aｺｰｽ指定内容の実技を行う。
最近の生殖治療～不育・不妊治療の実際～	県民の母子保健ｻｰﾋﾞｽ向上のため、生殖医療の現状や実態を鑑み看護職の役割・課題を明確にする	講義形式	大学教授（産婦人科医師） 医師（開業）	3時間	なし	生殖補助技術ARTの現況と将来・問題点、さらに遺伝子医療との関連を知り医療従事者として今後のARTのあり方について。 不育症の現況と医療従事者としての役割について。
流産・死産児のｸﾞﾘｰﾌｹｱ	県民の母子保健ｻｰﾋﾞｽ充実のため、周産期領域で行われているｸﾞﾘｰﾌｹｱの現状や実態を鑑み看護職の役割・課題を明確にする	講義形式	教授（看護学科） 助産師（臨床心理士）	3時間	あり	遺伝外来における出生前診断の紹介と告知と向き合う本人家族と医療者の気持ちのｽﾞﾚや揺れる思いなど事例紹介。看護師の役割や忘れてはいけないことについて。 臨床心理士から、母親と家族のためのｸﾞﾘｰﾌｹｱ、ｽﾀｯﾌのためのｸﾞﾘｰﾌﾜｰｸについて紹介と研修生同志で語りの体験を行った。

Pulmonary Resuscitation；以下NCPR略)、4）最近の生殖治療～不育・不妊治療の実際～（以下不妊・不育略)、5）流産･死産児のグリーフケア（以下グリーフケア略）である。

4．調査方法

1）配布および回収方法：無記名自記式調査票（以下調査票）を研修前に配布し協力依頼した。研修修了後に回収ボックスを設置し回収。回収を持って研究の同意とみなした。

2）調査内容

調査内容は、①対象者の特性（年齢、職種）②研修の開催を知ったきっかけ③研修参加の動機④研修への参加態度とその理由⑤今回の研修をどのように活かすか⑥研修で困ったこと・不明な点の6項目である。①と②は選択式とし、③～⑥については記述式とした。

5．倫理的配慮

調査に先立ち研修時間の冒頭に、研究の主旨と方法、回答は自由意志であり拒否した場合でも不利益は生じないこと、協力者の負担と利益、協力に伴うリスクの可能性とその対応、匿名性確保の方法、具体的なデータ管理方法と廃棄方法および時期、そして研究結果の公開方法について、口頭説明した。

6．分析方法

EXCEL2010を用いて、選択式の設問については基本統計量の算出を行い、記載式の設問については、得られた回答を分類して項目立てし、項目ごとの回答数（%）を示した。

Ⅲ　結果

5つの対象研修会の参加者は平成23年度318名、平成24年度287名、平成25年度233名の合計838名であり、調査票回収率は100%であった。そのうち807名（96.3%）を分析対象とした。（表2）

1．対象の特性（表3）

3年間の各研修受講者の特性を表3に示した。研修全体からみた年代別受講者の割合は、

20歳代37.2%、30歳代32.6%、40歳代20.4%、50歳代以上9.8%であった。

各研修参加者の年代構成は「CTG」（$\chi^2(3)=44.8$, $p<.001$）「グリーフケア」（$\chi^2(3)=62.1$, $p<.001$)、「不妊・不育」（$\chi^2(3)=19.4$, $p<.001$)、「リフレクソロジー」（$\chi^2(3)=19.4$, $p<.001$)、「NCPR」（$\chi^2(3)=31.2$, $p<.001$）と有

表2　年度別種類別研修参加人数

	CTG	グリーフケア	不妊･不育	リフレクソロジー	NCPR	合計
平成23年度	101	79	73	33	32	318
平成24年度	98	61	45	43	40	287
平成25年度	68	42	46	45	32	233
合計	267	182	164	121	104	838

表3　対象の特性

	CTG (n=265)		グリーフケア (n=175)		不妊･不育 (n=151)		リフレクソロジー (n=115)		NCPR (n=101)		全体 (n=807)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
20歳代	105	39.6	78	44.6	40	26.5	36	31.3	41	40.6	300	37.2
30歳代	76	28.7	57	32.6	57	37.7	36	31.3	37	36.6	263	32.6
40歳代	52	19.6	31	17.7	35	23.2	32	27.8	15	14.9	165	20.4
50歳代以上	32	12.1	9	5.1	19	12.6	11	9.6	8	7.9	79	9.8
助産師	227	85.7	131	74.9	91	60.3	94	81.7	68	67.3	611	75.7
看護師	26	9.8	28	16.0	30	19.9	15	13.0	23	22.8	122	15.1
保健師	0	0.0	4	2.3	14	9.3	0	0.0	0	0.0	18	2.2
その他	12	4.5	12	6.9	16	10.6	6	5.2	10	9.9	56	6.9

意差がみられた。

研修全体からみた職種は、助産師75.7%、看護師15.1%、保健師2.2%、その他6.9%であった。

2．研修の開催を知ったきっかけについて（表4）

研修の開催を知ったきっかけを表4に示した。半数以上が「看護協会からのお知らせ」であり、次に「上司から」であった。

3．研修参加の動機について（表5）

研修参加の動機は、「臨床の現場で困ったことがあった」「スキルアップのため」「知識の確認をしたかった」などであった。また研修テーマについて「興味・関心があった」「最新の情報が知りたかった」であった。

4．研修への参加態度とその理由について（表6）

「研修への参加を積極的にできましたか」の設問に「で

表4　研修の開催を知ったきっかけ

	CTG (n=265)		グリーフケア (n=175)		不妊・不育 (n=151)		リフレクソロジー (n=115)		NCPR (n=101)		全体 (n=807)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
協会からのお知らせ	105	39.6	90	51.4	107	70.9	65	56.5	53	52.5	420	52.0
上司から	72	27.2	46	26.3	20	13.2	19	16.5	33	32.7	190	23.5
友人から	15	5.7	10	5.7	10	6.6	11	9.6	10	9.9	56	6.9
職能委員会から	5	1.9	12	6.9	6	4.0	5	4.3	5	5.0	33	4.1
その他	10	3.8	10	5.7	8	5.3	10	8.7	0	0.0	38	4.7
不明	58	21.9	7	4.0	0	0.0	5	4.3	0	0.0	70	8.7

表5　研修参加の動機

CTG	グリーフケア	不妊・不育	リフレクソロジー	NCPR
○最新の知識の獲得	○興味、関心があったため	○不妊治療後の妊婦さんが増えてきているため	○興味があったため	○正確な蘇生ができるようになりたいから
○ガイドラインの改正があり新しいガイドラインに沿って学びたいから	○心に残る対象との関わりがあるから	○最新の不妊治療を知りたかったから	○妊産婦ケアに役立てたいから	○日々、必要だと感じていたから
○復職するため	○実際の場面で戸惑うことが多いから	○興味が持てる内容だったから	○無料で近くで開催しているから	○復職するために
○判読に困ることがあったから	○上司に勧められて、スタッフに聞いてきてほしいと言われたから	○知識を深めたい、基礎的なことを知っておきたいから	○自分がリフレクソロジーで癒されているから、気持ちいいと聞いたから	○施設内でBコースを積極的に開催したいから
○病棟内の勉強会に活かしたいから	○不妊、不育相談のために	○母性看護実習の担当になったから	○リラックス法の一つとして学びたかったから	○急変に対応できるために
○異常時の対応がわからないことがあったから、対応に自信がないから	○自己の振り返りをしたかったから	○友人の娘が治療を受けているから	○新しい知識を得たかったから	○同僚や上司からの勧めがあったから
○安全なお産に必要だと感じたから	○ペリネイタルロスに関する研究をおこなっているため	○自分が不育症・不妊治療中だから	○スキルアップのため	○認定資格を取りたかったから
○院外での講義に参加したかったから	○無料の研修だから	○不妊に悩む夫婦や取り巻く環境について理解を深めたいから	○上司や職能委員に勧められたから	○以前より受講を希望していた
○正しいアセスメントができるようになりたいから	○病棟でグリーフケアのパンフレットを作成しているので、参考にしたいから		○助産学校で案内があったから	○後輩・学生の育成のために
○すすめられた、先輩に誘われたから	○自分のやっていることの意味付けがほしかったから		○昨年、参加できなかったから	○リスクのある分娩が増加しているから
○無料だったから	○寄り添ったケアがしたいから		○今まで学習する機会がなかったから	○施設内でのアルゴリズムの統一をしたいから
○助産師がたいへんな時に見れるとよいと思ったから（看護師だから）	○相談対応のスキルを身につけたいから			○小児科医師不在の帝王切開が多いため、医師が来るまで不安に感じたため
○プリセプターをしているので、学生指導をしているから	○流産、死産に立ち会う機会が多くあるから			○ガイドラインの推奨をしたいから
○危険を回避したいから	○関わる機会がないので学習したいから			

表6　研修への参加態度とその理由

	CTG	グリーフケア	不妊・不育	リフレクソロジー	NCPR
積極的に参加できた	○興味のある内容だった ○関心を持って集中して聞くことができた ○当院での対応を思い出しながら話を聞いた ○再度学習するところが解った	○積極的に聞けた ○専門職としてかかわりを考える良い機会となった ○自分のケアの振り返りになった ○臨床心理士の仕事に興味があったので勉強になった ○興味深く聞くことができた ○グループワークで他人の意見が聞けて良かった ○他施設の状況や対応を知る機会が得られた ○グループワークで自分の思いが話せた ○具体的なケア内容を学ぶことができ、得るものが多かった	○不育症について知識を新たにできた ○最新の治療が解りやすかった ○ARTの現状について勉強することができた ○具体的な数値が解った ○興味を持って講義を受けられた ○普段疑問に思っていることが聞けて良かった ○解りやすい講義で、専門知識を得ていなくても理解できた	○いろいろ質問できた ○実技があり楽しかった ○講師に見てもらい理解しやすかった ○明日から実践できることを学べた ○わかりやすかった	○とてもわかりやすかった ○事前学習と照らし合わせて参加することができた ○疑問に感じていたことを聞くことができ、学びが深まった ○実技演習が充実していた ○楽しく参加できた
積極的に参加できなかった	＊途中眠った ＊講義のスピードが速かった				＊自分からは積極的にできなかった ＊もっと事前学習をしてくれればよかった ＊技術の時間が短かった

きた」「できなかった」の選択とし、その理由を記述依頼した。「できた」の理由は、「臨床での対応と比較しながら参加できた「最新の知識を獲得できた」「わかりやすい研修だった」などであった。一方、「できなかった」の理由は「講義のスピードが速かった」「事前学習不足」などであった。

5．研修をどのように活かすかについて（表7）

「CTG」については、研修会での学びを病棟スタッフへ伝達し知識の共有を図るとともに、ガイドラインやマニュアルを再確認する。日々の分娩対応時や異常の早期発見につなげていくなどの行動目標の設定へと活かされていた。

「グリーフケア」については、病棟での伝達講習で知識を共有する、グリーフケアカードやマニュアルを作成し、病棟全体で患者とその家族に寄り添ったグリーフケアを実践へ活用するなど現在実践している看護を向上させたいという思いや産科病棟だけでなく、臨床心理士とのカンファレンスや、地域のピアグループの支援など、退院後の患者サポートまで見据えた関わりをしていきたいという内容があった。

「不妊・不育」については、正しい知識を持つことで、

表7　研修をどのように活かすか

CTG	グリーフケア	不妊・不育	リフレクソロジー	NCPR
○病棟での共有、伝達講習 ○資料の回覧 ○勉強会、後輩指導の実施 ○学生指導に生かす ○異常の早期発見に努める ○モニターを装着するタイミングと対応を参考にしたい ○ガイドラインに沿っていきたい ○アセスメントをする際参考にしたい ○判読について話し合いや振り返りを行う ○不測の事態の回避につなげたい ○今まで以上にモニターに注意する ○医師と協働していきたい ○本で復習する ○シュミレーションとマニュアルの見直し ○医師や検査科、手術室などとの連携に努める	○臨床で実際に生かす ○病棟で伝達講習を行う ○上司に伝え、チーム医療を目指す ○グリーフケアカードを作成したい ○グリーフケアマニュアルを作成したい ○臨床心理士ともっとカンファレンスをもちたい ○退院後の自助グループの紹介について検討していきたい ○「何をしてあげようと思わなくていい」と教わったので、まずはそう接していこうと思う ○様々な体験者の声を集めた文献などを読み、実際のグリーフケアのあり方を考え実践していきたい ○少しでもケアの時間をとれるようにしたい ○対象に寄り添えるケアを実践したい ○産婦だけでなく家族にも、心の寄り添ったケアを行う ○病院と連携し、地域でグリーフケアについて取り組む ○地域のピアグループを支援する	○とても難しい分野なので、スタッフ同士でもディスカッションしていきたい ○病棟で知識として生かしたい ○後輩指導に活かす ○児や母に寄り添っていきたい ○生殖医療の問題、背景についての知識を持つことで、患者に対して利益となる正しい情報を自信を持って対応できる ○不妊治療後の妊婦さんもいるため、現在の治療や現状を理解したうえで関わりたい ○NICU勤務なので、不妊治療後の出産にかかわる時にその夫婦の背景理解につなげたい ○IVF-ET後の産婦さんの精神的ケアに役立てたい ○不妊症や不育症の女性から行政に対する要望をいただいている中で、基礎的な事項を把握しつつ、政策に活かしていきたい ○今後の助成事業の運営を考えていくうえで活かしたい	○病棟で伝達講習を行う ○さっそく病棟で褥婦に実践したい ○褥婦のマイナートラブル対策に活かしたい ○分娩時に実施したい ○切迫早産の妊婦のリラックスに使いたい ○外来の悪阻の患者に実施したい ○おっぱいトラブルに実施したい ○ベビーの排泄促進に活かしたい ○母親学級で紹介したい ○助産師外来で実施したい ○リラクゼーションに活かしたい ○自分の家族に試したい ○産科以外の患者や、ターミナル期の患者にも試したい ○コミュニケーションの手段に活かす	○勉強会を開催する ○スタッフと共有し、医師とも連携をとっていきたい ○日ごろから忘れないよう心がけ、必要時活かせるようにしたい ○後輩の育成、新人の育成 ○新生児を取り巻く物品の整備充実に向けて、点検したい ○病棟スタッフに研修会への参加を呼び掛ける ○Bコースの開催 ○アルゴリズムに沿ってできるよう実践していく

患者の理解や精神的ケアにつなげたい、児や母に寄り添うケアに活かす内容と合わせて助成事業の運営や政策に活かしたいといった意見もあり看護職以外の受講ニーズがあったことがうかがえる。

「リフレクソロジー」については、悪阻の妊婦、切迫早産の妊婦、分娩時の産婦、マイナートラブルのある褥婦、産科以外の患者やターミナル期の患者、ベビーの排泄促進など、幅広い対象に実践していきたいという意見が見られた。また助産師外来での実施や母親学級で紹介したい、リラクゼーションに活かしたいなどの内容であった。

「NCPR」については、得た知識を日々の実践に活かすとともに、物品の整備や点検の実施、後輩や新人の育成に活かしていきたいであった。

6．研修で困ったことや不明な点について（表8）

各研修で困ったことや不明なことについてのコメントを表8に示した。内容をまとめると研修の資料に関する意見が目立った。具体的には資料の配布がなかった研修に対して、職場での活用・伝達講習を行うために資料の配布を希望することや、カラーコピーによる資料の配布という要望であった。また講義内容は基礎知識の確認より臨床現場での具体的な症例の解説を希望する。実技研修は、講師の手技が見えづらい。演習時間の不足などの指摘があった。研修会場や休憩場所などの環境について、研修申し込み方法に関する意見があった。

Ⅳ　考察

1．研修受講者の特性

研修全体からみた年代別受講者の割合は、20歳代37.2%、30歳代32.6%、40歳代20.4%、

50歳代以上9.8%であった。ジェネラリストとして臨床現場の第一線で働く年代である20歳代、30歳代が約70%を占めており研修のニーズの高さを示している。職種は、保健師・看護師・その他の職種が約3割であった。助産師職能研修会は、県看護協会の公益目的事業としての研修であり、参加職種が助産師のみではないことから公益社団法人の目的を果たしていると考える。特に「NCPR」は看護師が22.8%、「不妊・不育」は、保健師・看護師が29.2%であった。今後も県民の母子保健・周産期医療サービス充実のために、助産職のみの研修ではなく、広く看護職の支援を行うことができる研修企画を行っていく必要があると考える。

2．研修を知ったきっかけについて

研修全体から研修を知ったきっかけの割合は、県看護協会からのお知らせが52.0%、次いで上司から23.5%と上位を占めていた。研修テーマや開催時期、場所等の案内は、県看護協会からの配布物やホームページなどで行われている。約半数が研修を知るきっかけと答えていることは、広報活動の重要性の示唆を得ることができた。

研修の定員は、NCPRのみ32名で他の研修は50名定員

表8　研修で困ったことや不明なこと

CTG	グリーフケア	不妊・不育	リフレクソロジー	NCPR
○進行テンポが速かった ○休憩がほしかった ○トイレ休憩が欲しかった ○パソコンでの申し込みがあるとよい ○練習問題の解答がほしかった ○連絡が来なくて不安だった ○パワーポイントが見えにくかった ○トレイが暑いのに会場が寒かった ○資料が読めない部分があった ○資料の活用が不明 ○資料が白黒で見にくかった ○職場で活用しにくい資料 ○資料が見づらかった ○カラーコピーにして欲しかった ○印刷の色が白く、背景が黒いので書きにくかった ○時間が短かった。 ○先生が早口で分かりにくかった。具体的に資料の説明をして欲しかった ○昼食を食べる所に困った ○スライドの資料がほしかった	○ケースバイケースのため、もっと様々な事例を詳しく知りたかった ○会場が分かりにくかった ○研修の内容の詳細を知りたかった	○時間が足りない ○紹介されたハンチントンのDVDが見たかった ○講義の時間が短かったため、2回くらいに分けていただけるとよかった ○助産師さん対象で、ついていくのが難しかったと思ったけど、なんとか理解できました ○カラーの資料があるとよかった ○メモをするのに会場は明るいとよかった ○会場の表示が分かりにくかった	○もっと詳しく技術を学びたい ○家に帰ったら忘れてしまいそう ○講義の資料が細かくて見えないところがあった ○口頭のみの内容があった ○講師の手技が見えづらい ○3時間では足りなかった ○ファックスでの申し込みのため出席できるが不安だった ○時間があればもう少し実技をやってほしい ○ドルフィンが難しかった ○必要物品の使い方の検討が必要（ベビーパウダーは何のために必要だったか不明です） ○参加できるかどうか連絡がなく困った	○薬剤投与のデモがない ○インストラクターが少ない ○全員がリーダーをできない ○昼休憩がほしかった ○プレテストよりポストテストの方が分からないことが多かった。 ○実技は休憩がなく、後半疲れが出た ○もっと大きなアルゴリズムがあればよかった ○2005年度版からの変更点など資料で配布してほしかった

である。研修希望者が定員を超えた場合では、研修会場に収容可能な人数であれば受け入れていた。3年間の受講者数からもわかるようにどの研修も募集枠を超えた応募者であった。助産実践力向上に役立つ知識・技術等の魅力ある研修テーマが、受講者の研修意欲を高めた結果だと考察した。

3．研修参加の動機について

各研修の参加動機を記述された内容から分析すると、「CTG」は平成22年にガイドラインが改定され、アンケートでも「最新の情報を知りたかった」や「ガイドラインを再確認したかった」など臨床現場でのニーズにあった研修テーマであったと考える。

「グリーフケア」は、「現場での家族との関わりに迷いがあった」「グリーフケアがどのようなことなのか知りたかった」のように、臨床で対応に悩むこと、困っている内容のテーマであり、ニーズの高さが伺うことができる。

「不妊・不育」は、平成24年から自治体による補助金が出されるようになった影響もあり、利用希望者からの問い合わせに対応するために、保健師の参加も増加したと考えられる。

「NCPR」は、認定取得の講習会のため定員32名である。毎回応募者が多いため厳しい倍率で受講者を選出している。神奈川県の出生数に対してNCPR認定者数は全国平均より少ない状況であることや受講ニーズが高いことから県内のNCPR普及にさらに貢献して必要があると考える。

4．研修の参加度について

5つの研修テーマは、母子の健康に関するテーマであり、多くの方々に受講してほしいと願い、応募者全員が入れる研修会場の確保に翻弄した。活動方針「県民の母子保健・周産期医療サービス充実のために助産師の専門性の確立と現認教育を支援する」を目指し、募集定員を超えた場合でも可能な限り受講できるように努力した。これらのことが研修への参加度や満足度に反映したと考えられる。

5．研修後の活かし方について

研修をどのように活かすかの問いに対し、受講後の満足度とその理由に記述されている内容と似た内容であったが、受講者自身の行動目標の設定に活かすための内容が含まれていた。受講者自身が抱えている問題の解決にむけて何から取り組めばいいか考える機会になっていると推察される。

以上のことから、母子保健・周産期医療サービス充実のために企画・運営された研修は、看護職の専門性の確立と現認教育を支援する有効な研修であったと示唆された。さらに受講者自身がいきいきと働き続けるために必要な目標設定の一助に研修の存在があり、研修の知識技術の獲得以外の副産物の獲得の場として有効であると確認できた。

V　今後の課題

今回、過去3年間に実施した研修の有効性を分析する上で使用した調査票は、助産師職能委員会で永い間使われていたものである。調査票は自由記載を求める項目が多く、研修の有効性を分析する上で数値化できず非常に困難であった。今後は、調査票の検討が課題として明らかになった。

謝辞

本研究をまとめるにあたり、ご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

1）公益社団法人神奈川県看護協会＜http://www.kana-kango.or.jp/about/information/＞（アクセス：平成25年12月3日）
2）日本看護協会編：「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」活用ガイド. 2013年8月.
3）福井トシ子：ALL JAPANで活用する助産実践能力習熟度段階（クリニカルラダー）. 助産師雑誌. 2013, 67 (9), 744-751.

＊本原稿は「第27回神奈川母性衛生学科学術総会ならびに学術集会」にて発表したものに加筆を行いました。

著者への連絡先：前山直美　〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地　神奈川歯科大学短期大学部　看護学科
TEL：046-822-8774　FAX：046-822-8787
E-mail：maeyama@kdu.ac.jp